

ブラザーの家庭用ミシン開発史 —ブラザーミュージアム—

■安井兄弟のミシン国産化への挑戦

ブラザー工業株式会社の創業者安井兄弟の兄・安井正義は、1921(大正10)年に名古屋白鳥実業補修学校で、ケース・ハードニング(表面焼き入れ)という技術があることを学び、実験を繰り返してこの技術を修得し、国産ミシンの開発に乗り出した。

1927(昭和2)、麦わら帽子製造用環縫ミシンが完成し、翌1928(昭和3)年に「昭三式ミシン」と銘打って、「BROTHER」商標名で世に出した。「環縫い」とは「単環縫い」ともいい、最初に考案された縫い方で、上糸一本だけを使い編むように縫い目を作る方法である。単環縫いは、伸縮性があり丈夫だが解き易いため、仮縫いや



【写真1】 ブラザーの家庭用ミシン第1号機(15種70型)
2016年筆者撮影



【写真2】 ミシンの組立工場 写真：ブラザーミュージアム提供

袋の口縫いに使われている。このミシンは、2007(平成19)年に、日本機械学会より「機械遺産」に認定された。

次に安井兄弟の弟・実一は、家庭用ミシンの国産化に取り組み、当時の国内技術では困難とされていたシャトルフック(往復式シャトル機構)の開発に成功し、1932(昭和7)年、悲願の家庭用ミシン第1号機(家庭用本縫いミシン15種70型)を完成させた。正義が国産化を決意して11年目のことであった。本縫いとは、上糸の針糸と釜のボビン糸(下糸)による縫い方で、本縫いができる家庭用ミシンとしてはわが国最初のものである。このミシンは、2007(平成19)年に経済産業省より「近代化産業遺産」に認定された。

■ブラザーミュージアムと世界のミシン・コレクション

2005(平成17)年、ブラザー工業株式会社は、「顧客との交流の場を設けることを目的」としてブラザーコミュニケーションスペース(2018年にブラザーミュージアムと改名)を開設した。ブラザーミュージアムは、世界のアンティーク・ミシンやブラザーの代表的ミシンを展示する「ミシンゾーン」、ブラザー製品の歴史を展示する「ヒストリーゾーン」、現在ブラザーが展開している全事業の新製品を展示する「プロダクトゾーン」の三つのゾーンに分けて展示している。

1854年(安政元年)、ペリー提督が横浜に再来航した際、十三代将軍徳川家定にさまざまな献上品を贈ったが、その中にミシンがあり、日本で初めてミシンを使ったのが、家定の奥方、天璋院敬子(篤姫)といわれている。この時、献上されたミシンは、米国ウィーラー & ウィルソン社製と伝えられる。

明治になり、軍服の大量生産のためにミシンが輸入された。また、婦人の夜会服やドレスの縫製用に横浜や神戸で輸入販売され、国産ミシンが開発される大正期まで、ミシンはすべて輸入品であった。

ブラザーミュージアムには、1830年にフランスのパーシレー・シモニアが発明した世界最初の実用ミシン(複製)、1845年にエリヤス・ハウが発明した最初の本縫いミシン(複製)、1851年に初めて米国特許を取得したシンガーミシン1号機、日本に最初に伝わったウィーラー & ウィルソン社製ミシン(1861)、世界的にヒットしたシンガー・ニューファミリー(1865)、イギリス初のミシンメーカー・ジョーンズ社のミシン(1897)など、1800年代に作られた世界の歴史的ミシンの数々を展示している。



【写真3】 ブラザーミュージアムの世界のミシン・コレクション
写真：ブラザーミュージアム提供

所在地：名古屋市瑞穂区塩入町5番15号
電話：052-824-2227
開館時間：10:00-17:00
休館日：土・日曜日、祝日、年末年始等
入館料：無料
アクセス：名鉄・堀田駅から徒歩2分、地下鉄堀田駅1番出口から徒歩3分

(石田正治)